

# 発想の現場としてのドローイング・アーカイブ

2022 年度活動報告

## プロジェクト概要

ドローイングは紙などの記録媒体に手を動かし痕跡を残すことで、イメージへアプローチする最も原初的な手段といえる。私自身、描き手としてドローイングを行う中で、描くこととイメージ（ここでいうイメージとは私たちを取り巻く多種多様な「像」のことであり、色や形をもった事物や心象風景から感情まで多岐に渡るもの）の間には相互関係があるということを経験しつつ、その中で描く楽しさを経験してきた。

ここで仮にこの相互関係を「a（描く） $\rightleftharpoons$ b（イメージ）」という簡単な記号で表してみたい。

a から b へ伸びる矢印は「描く行為がイメージを目指すこと」、b から a へ伸びる矢印は「描かれたものが別のイメージを連想させ次の描く行為を誘引すること」という関係が繋がっていることを指している。つまり、ドローイングにおいては、ある像を創造する側面と、ある像へ導く側面が入れ替わり立ち替わりながら現れ、どちらが先かということは厳密には言い当てられない。そしてその関係性は、意識下であったり無意識下であったりと、その時により様々である。また人によっては、a からの矢印と b からの矢印のどちらか片方の力が強い場合もあるかもしれない。いずれにしても、描くこととイメージの関係は一方通行ではなく、多かれ少なかれ行き来しながら手を動かしているということになる。

このプロジェクトでは、このような発想の現場としてのドローイングを、「a $\rightleftharpoons$ b」の関係性を読み解くことのできる芸術資源とみなしアーカイブを進めていこうとしている。つまり、ドローイングの役割について、「イメージ」と「描く」という行為の間にある相互関係のありように焦点を当て、様々なサンプルから実態を捉えることを目的に、またそれが後の教育や研究において利用可能なアーカイブとして、ドローイング行為の収集を目指そうというものだ。

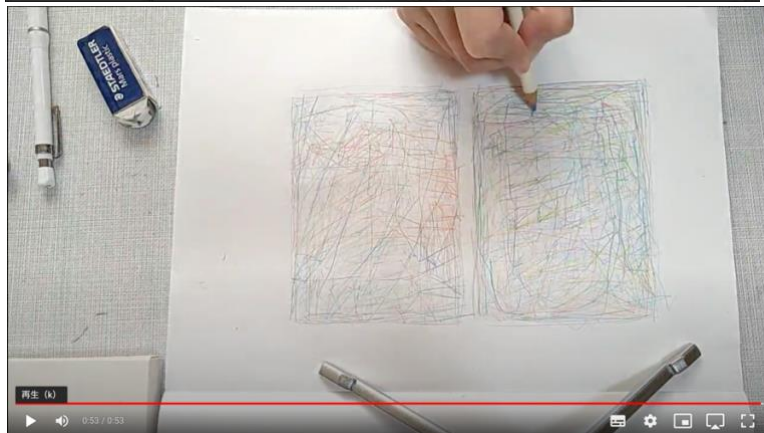
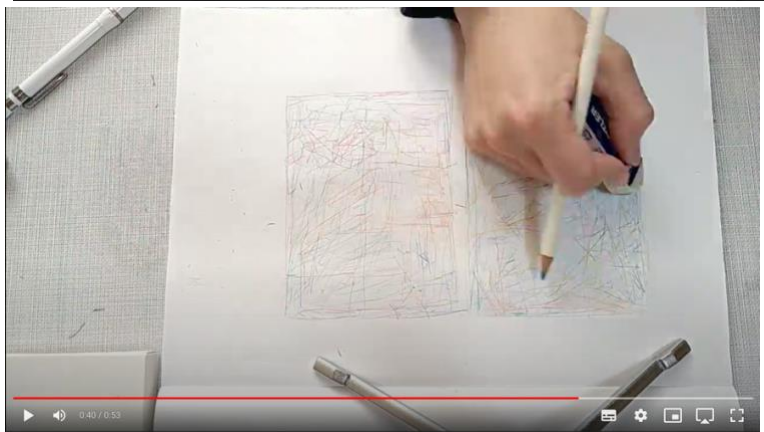
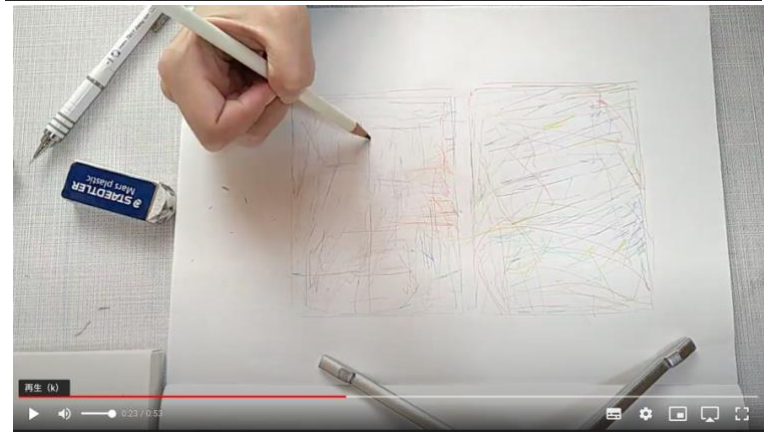
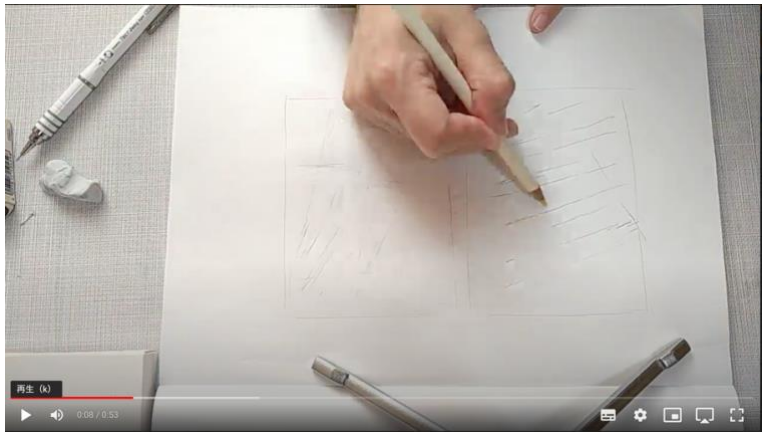
以上の観点から、アーカイブ対象となるものとして留意したいのは、芸術性の高いドローイングだけを対象とすることよりも、むしろ途中段階の記録や落書きのようなそれ自体に何かしらの価値判断を下すことさえ難しいものも含んでいる点にある。そのためドローイングの途中段階の画像、作画している様子を収めた動画や、ドローイングに対する制作者のコメント等についてもアーカイブすることを視野に、現物ではなくデジタルアーカイブが基本となると考えた。

## 今年度の取り組み

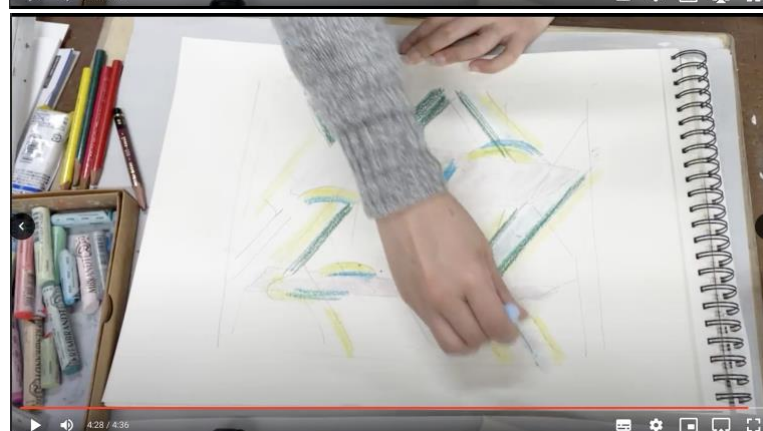
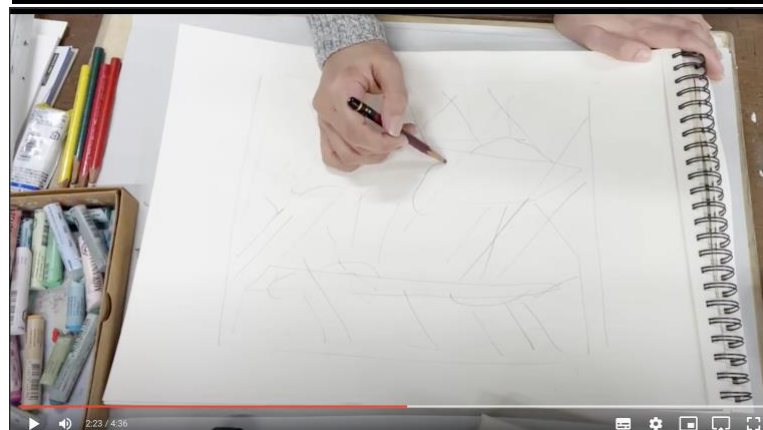
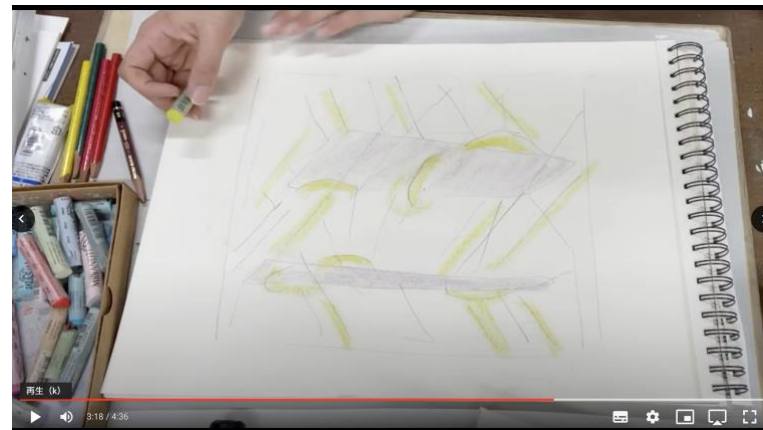
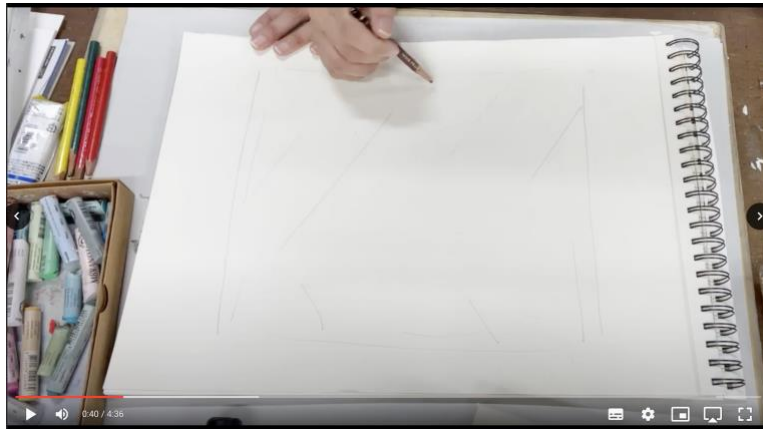
基本的には三ヵ年計画で、この多岐にわたるドローイングの収集を効果的に行なっていくため、今年度は準備期間として設定した。ドローイングの収集対象は、どのようなものが想定されるのか、またどのような方法で収集しうるのかを検証するため、プロジェクトメンバー内で自らのドローイング画像を実験台として想定を行ってきた。また、ドローイング描画の動画撮影を試みることで、どのような条件であれば作画行為の中にあるイメージと描くことの関係性を写し出すことができるのか検証を進めている。

一方、画像の収集方法の検討として、当初は操作の簡便さから Twitter での作業を試したが課題も多く、現段階では本研究用の Google アカウントを作成し、その中で画像を抱えることにして、画像の関連性に基づくファイリングを行うこととした。今後 Google フォームの活用を視野に、今年度中には、ドローイング収集のためのプラットフォームを完成させる予定である。

谷内春子



プロジェクトメンバーによるドローイング動画から抜粋



プロジェクトメンバーによるドローイング動画から抜粋